

福井工業大学附属福井高等学校長 佐々木栄秀

本来であれば、体育館に集合し、春高バレーに出場する男女バレーボール部の選手の皆さんに、中高併せて1700人から熱い声援を送りたいところですが、コロナ禍のために叶わず、このように映像による壮行会となり申し訳なく思っております(実際には、雪のために、壮行式も中止となりました)。1月4日から始まる試合では、遠くから、皆で、東京体育館まで届くよう、熱いエールを送りたいと思います。

今回の組み合わせ表を見ますと、私の独断と偏見ですが、男女共に、ベスト8までは圧倒的な強豪チームはいません。もちろん、どんな試合でもそうですが、自分がミスを重ねれば、勝利は勝ち取れませんね。

順当にいけば、準々決勝で、男子は鎮西と、女子は八王子実践と戦うことになり、大きな山です。強い相手であることには間違いありませんが、実は、うちも強い。したたかに、勝利を追求してほしいと思います。ミスを恐れず、消極的にならずに、大胆に攻めれば、勝利はころがってきます。有観客となる7日には、私を東京に呼んでください。朝一の新幹線で参ります。

3年生にとって、これが、高校3年間、中高6年間の集大成。高校生の最後の大会で、全国のステージで試合ができることへの感謝を忘れず、自分を信じ、仲間を信じ、悔いの残らない試合ができることを願っています。

さて、12月は暦の上で1年の締めくくりです。振り返れば、今年は、日本でも世界中でも、ひどく、辛(つら)く、醜い事件ばかりが続きましたので、今日は、明るく、楽しいスポーツの話をさせていただきます。なお、堅い話ではありません。私の個人的な偏見や趣向も入っています。気楽に聞いていただければありがたいです。

まず、本校の直近の11月の新人戦の結果を紹介しますと、団体では9競技優勝。準優勝3競技。そして、個人では41種目で優勝。相変わらず、強さは際立っています。ありがとうございました。新チームにも伝統が受け継がれていることも嬉しいです。

この一年を振り返ると、

まず、4月に女子硬式野球部が全国制覇。キャプテンの東さんは新年から読売巨人軍の選手として活躍します。あのショートゴロを裁く、流れるような華麗なプレーが、今度はテレビで見られるのかと思うと今から楽しみです。また、優勝メンバーの主力の人たちも、福井工大に進学し野球部に入ると聞いています。新たなステージでの活躍を期待しています。

空手道部については、4月に女子の個人戦での大田さんが日本一になり、8月のインターハイでは、空手部の男子が、初めて団体で準優勝を勝ち取り、個人戦でも下村君が準優勝。次から次へと、ヒーローが生まれていることに感謝。

11月には、本校の男女バドミントン部の両エースがナショナルチームのメンバーに選ばれ、韓国オープンに出場。山田君は日本人で唯一4回戦まで進み、松田さんは、他校の選手と組んだダブルスで3位、個人では優勝しました。準決勝で、埼玉栄高校のナンバーワンを撃破し、決勝では、韓国のエースに勝って、世界の舞台で優勝し、世界一になりました。昨年、この男女のエースは、全中3位となり、高校1年生になっても、順調に伸びていることを確信できます。

おめでとうございます。そして、ありがとうございました。

これらは、皆さんの活躍のごく一部でしかありません。他の生徒の皆さんの多くの活躍については、別途ホームページで紹介します。

今年一年、多くの皆さんが、素晴らしい結果や頑張りを校長室に報告に来てくれました。試合の様子などを聞くたびに、楽しいひと時を過ごすことができました。また、皆さんが、県や、日本や、世界の大会で、あまりに「簡単に」優勝したり、成果を出したりしてしまうので、私の感覚が麻痺しそうでした。これは、大谷翔平選手が、メジャーリーグで、バッターとピッチャーの両方の偉業を2年連続で達成していても、この快挙に皆が慣れてしまい、当たり前になっている感覚のマヒと同じですね。

もちろん、優勝がすべてではありません。重要なことは、自分が、自分のプレーやパフォーマンス、もしくは、結果に満足できたのかどうかです。勉強においてもスポーツにおいても何事においても、努力してきたことを結果として発揮すること、後悔しないよう積極的に、精一杯やってくれることを願っています。

次に、今回は、サッカーの話題に触れずにはいられませんね。4年に一度のワールドカップが、ほぼ1か月の熱戦を経て、今週19日(月)の深夜3時に終わりました。個人的には、夜中に、本田圭佑の本音トークと的確な解説を聞きながら、序盤は日本を応援し、ベスト8の試合からは、純粋にサッカーを楽しみました。

日本チームが素晴らしく成長したと感じました。勝てそうにないと思われていたドイツやスペインに勝ち、決してまぐれでなく、互角もしくはそれ以上の試合ができるくらいになっていたことを証明し、とても感動しました。同時に、日本が常に上で戦うには、体力や戦術やメンタル面では「あと少し」何かが足りないとも感じました。ワールドカップの戦いについて、日本選手は頭で理解していても、肌感覚でわかっていないのかなと感じました。結果として、日本はクロアチアの「術中」にはまり、PK負け。ベスト8に届かず。これは、

勝たなければならなかった試合でした。「何か」が足りなかった。これが今後の課題。
しかし、最終的なFIFAの発表では、日本は9位だそうです。過去最高。素晴らしい！！

日本と同じE組で2位通過のスペインのルイス・エンリケ監督は、「大会前に、各選手にPK1000本を宿題にした」と明かしました。私も、日本がPKで負けた時には、ワールドカップで戦うには、そこまで用意をするのだなと感じました。「PKの結果は神のみぞ知る」などと言われるように、運にも左右されますが、その領域ですら、努力によって克服するのが世界の超一流だと感じました。でも、そのスペインも、ご存じのとおり、モロッコ相手にPKで負けました。

中村俊輔選手が、「PKもサッカーなんだなあ」とボソッとつぶやいたのを思い出します。「PKはサッカーじゃない」と言う人がいますが、決勝のアルゼンチンとフランスはPKの勝ち負けで、天国と地獄ほどの差がありました。「PKこそがサッカーの究極」か。

選手がPKを蹴るときには、試合で延長まで（前後半 45×2+延長の前後半 15×2）の120分間フルに走り、戦い、体力を消耗し、その上で、1本のPKを決める技術と精神力が必要です。右か左か。グラウンダーか浮かすのか。それとも正面か。試合の流れやPK戦の流れなど、駆け引きは、実に複雑で難しい。実に、サッカーは奥が深い。

結局、練習でPKを1000本蹴ったとしても、本番の一本にはかなわない。何事においても言えるが、超一流になるためには、形だけの練習を何回やっても、無駄とは言わないが、効果は薄い。練習は練習にすぎない。（中高校生のレベルでは、普段の基礎練習がすべて）真の実力をつけるには、プレッシャーのかかる中で、本物を体験することが成長への一番の近道なのだと感じます。皆さんも、ぜひ、他流試合、武者修行をしよう。スポーツも芸術も勉強も同じ。強い相手や高いレベルでの挑戦をしよう。

3年半後に、堂安律と三苫薫の二大スーパースターに加え、伊藤純也、遠藤航、鎌田大地、そして悔しかったら久保建英も含め、彼らがどれだけ成長するか、今から楽しみです。

特に、今大会で、堂安選手は格の違いを証明した。サイド攻撃でも、中に切れ込んでも、強く、またゲームをコントロールすることもでき、ゴールもアシストもでき、キック力もあり、大会では、2得点を挙げ、真の日本のエースになりました。次のワールドカップでは、メッシやモドリッチのようなリーダーとなり、困ったら安心してボールをあずけられる選手になって、日本を上を連れて行ってほしいものです。

その堂安選手は、彼の言葉にも注目が集まった。彼のことを、Z世代にありがちな、根拠のない自信に満ち溢れたビッグマウスと言う人もいましたが、今大会で、彼は、自分の言葉で自分を鼓舞し、そして、ゴールを決め、有言実行で周囲を黙らせた。このように、言葉に

は、自分や周りの人を勇気づけ、気持ちを奮い立たせる力があります。もちろん、負の方向に働く場合もありますが、皆さんも、ぜひ、言葉の力を信じて、行動してください。

そして、実は、今月7日の福井新聞でも紹介されましたが、その堂安選手を中学校時代に指導していたのが、本校の男子サッカー一部顧問の入江先生です。入江先生は、本校に来て3年目ですが、来る前は、ガンバ大阪のアカデミーのコーチをしておられ、そこで、堂安選手を指導してきました。

現在、本校の男子サッカー部は、新人戦では、惜しくも3 - 2で丸岡に負けましたが、準優勝であり、今から期待が膨らみます。本校から、第二の堂安が出ることも期待しています。

スポーツについても一つ。先日、福井県出身のメジャーリーガーがついに生まれました。吉田正尚選手が、ボストンレッドソックスへの入団が決まり、5年122億（年24億）のビッグ契約（イチロー、松井、鈴木などの野手で過去最高）を結びました。彼の身長は173センチで野球選手としては小さい方で、大谷の193センチに比べ、体格でははるかに劣っています。しかし、日本球界を代表するバッターであり、あのシャープなミートから生まれるライナーや、力強いフルスウィングから生まれるホームランが評価されました。彼は、中学校時代から、クラブでの練習のあとに、毎日夜遅くまで、個人的に、バッティングセンターでボールを打っていたそうです。努力なしに、快拳は生まれなし、評価もされなしと感じます。

私たちの心の中には弱い部分があって、勉強でも、スポーツでも、自分が「できない」時、「上手く行かない」時、指導者や周りの環境などのせいにする人がいますが、まずは自分の努力が足りているのかを問う必要があります。先生に言われるまで勉強しなかつたり、コーチに言われるまで練習しなかつたり、指導者に言われるままで、工夫もしなかつたり。そして、拳句の果てに、上手く行かなければ、他の人のせいにしたりするようでは、成長はありません。是非、皆さんには、何をやるにも、他に責任を転嫁せず、自分の言動について、自分で責任を持ち、工夫をして逞しく生きてほしいと願っています。

次に、コロナについてですが、コロナ対策は、もう少し続きます。もうひとふんばり。

特に、冬の期間には、低温のためにウイルスの生存期間が長くなり、空気の乾燥のために、飛沫の飛ぶ距離が長くなり、寒くて部屋の換気が怠りがちになり、人の体温の低下が免疫力・抵抗力の低下になることが挙げられますので、注意をしてください。

なお、今年は、コロナと運動不足のために、免疫力がおちていると言われており、そのためにインフルエンザも大流行すると言われていています。

とにかく、マスク着用、手指消毒、体調管理、3密（密閉、密集、密接）を避ける行動を。

最後に、あと十日ほどで、今年が終わり、新年を迎えます。

3年生で進路決定が年明けになる人は、とりあえずがむしゃらに問題を解き、1月14日

の大学共通テストまで、体調に気を付け、猛勉強してください。そして、さらに、自分が、もう一段階上に伸びるのを信じ、2月25日までもうひと踏ん張り頑張ろう。

進路が決まっている3年生は、自分の教養を伸ばす何かをしましょう。文を読んだり、文を書いたりして、脳トレーニングしましょう。スマホ脳やスマホバカにならないように。特に、何もすることがないならば、英語でも勉強してください。かつて世界第二位の経済大国として繁栄した日本は、今や、陰りが見えます。国力が落ちれば、皆さんは、国内だけでなく世界で勝負しなければならない時代がやって来ます。これからの時代、英語は武器ではなく必然になりますよ。

1、2年生。勉強とクラブなどの文武両道のバランスを取ってください。二刀流です。心と頭と体を鍛え、さらに大きく飛躍するために力を蓄えてください。

新しい教育に求められているように、知識や教養、考える力、判断する力、表現力、そしてコミュニケーション力を磨きましょう。コミュニケーションと言えはお笑いですが、ロングコートダディがM-1で決勝に進み3位。ひそかに拍手。マラソンネタは最高でした。

最後になりますが、いつも申し上げていますが、冬休み期間でも、どこにいても、本校の建学の精神を忘れずに、あいさつや立ち居振る舞いなどの節度ある礼儀・正義を常に心に留め、自分に誠実に、相手には尊敬の念をもち、いつも感謝の気持ちを忘れずに、心豊かに生活し、逞しく成長してくれることを願っています。